

# 白道

(びやくどう)  
 第219号  
 発行 願勝寺  
 企画 編集委員会  
 編集

## 彼岸法要のご案内

期日 二月二十日(水・祝)  
 (春分の日)  
 時間 午後一時より  
 参加費 三,〇〇〇円  
 (夫婦でのお参りは五,〇〇〇円)  
 申込 三月十三日まで

墓参用の花・ローソク・線香は  
 用意いたしております。

○椅子席多数あります。  
 ○墓地清掃 三月二十四日(日)  
 午前八時より



スカウトたちが今年の目標を書初め 1/3

### 集会のご案内

聞法とは自分の人生を大切に生きるといふことです。教えを聞くことは、心が貧しくならないということ。私にとって、最も必要なことであり、最も急がなければならないことです。

○親親会

毎月第1金曜 午後7時  
 蓮如上人の「お文」を中心にした法話。

○婦人十日会

毎月10日 午後1時半  
 観無量寿経を中心にした法話。

○十五日講

毎月15日 午前11時半  
 音楽によるおつとめ、法話、お齋。

○宗祖御命日

毎月28日 午前11時半  
 おつとめ、法話、お齋。  
 門徒であれば全員集合の日です。当番町によるお齋の接待があります。

○声明教室

随時

どの集まりも、残念ながら人数が多くありません。一人でも多くの参加聞法を願っております。参加の方へは毎月ハガキ通信おとずれ(短信願勝寺)でご案内致します。

〈今号の言葉〉

安楽浄土にいたるひと

五濁悪世にかえりては

釈迦牟尼仏のごとくにて

利益衆生はきわもなし

今回のご和讃では、阿弥陀  
仏の浄土に仏様として生まれ  
た方について取り上げておら  
れます。そしてその仏様にな  
られた方が、その後どのよう  
に私たちと関わりを持つてく  
ださっているのか、というこ  
とが大きなテーマとなってい  
るご和讃です。

私たちは、浄土という言葉  
を聞きますと、何の不自由も  
なく、自在に過ごしていける  
世界を想像します。「安楽浄  
土」といわれますように、確  
かに、もろもろの苦が無く、  
もろもろの楽を受ける世界で

あると経典に説か  
れています。しか  
し不思議なことに、  
その何の苦も無く、  
ただ楽を受ける場  
所にせつかく生ま  
れたのに、わざわざ  
さもう一度、煩惱  
や欲望が盛んなこ

の世にかえつてくると和讃で  
いわれているのです。

私たちは、自分を満足させ  
るために、自分の周りの物事  
で解決しようとしています。何か  
便利なものを買ったり、美味  
しいものを食べたり、旅行に  
行ったりと、自分の外にある  
もので満たされようとしています。

そうして何とか安楽であろう  
と努力します。けれども、本  
当の喜びや満足というのは、  
自分の心の中から湧き上がっ  
てくるものです。生まれて良  
かった、今まで生きてきて良  
かった、本当に聞いていきたく

い教えに出遇えた。いずれも、  
自分の心の奥底から湧き上が  
ってくる喜びです。それはも  
う止めようがありませんし、  
抑えようがありません。もし  
かすると、その喜びは自分だ  
けに留まらず、他の人にも影  
響を与えるのかもしれない。  
せつかく安楽浄土に仏様と  
して生まれることが出来たの  
に、なぜわざわざ苦しみの方  
い五濁悪世のこの世にかえつ  
てくるのか。それは、浄土に  
生まれた喜びや感動を、まだ  
そこに生まれていない私たち  
に知らせようとして下さって

いるからに  
違いないの  
でしょう。

今回のご

和讃では、  
私たちに浄  
土の利益を  
伝える存在  
として、お

釈迦様の名前が代表として取  
り上げられています。しかし、  
お釈迦様だけがその役割を担  
って下さっているのでは決し  
てありません。私たちに先立  
つてお浄土に生まれたすべて  
の方が、私たちに浄土の教え  
を聞いてください、お念仏も  
うして生きてくださいと願っ  
て下さっています。浄土に  
生まれた方と私たちは、南無  
阿弥陀仏を通じて繋がってい  
るのではないでしょう。

(高間 弘昭)

今号のことば出典『浄土和讃』

『真宗聖典』 480頁

お講のご案内

毎月二十八日は、宗祖親鸞聖人の御命日のお講が開か  
れます。多くの方々が参加くださいますようお願いいた  
しております。  
時間は、午前十一時半より。正信偈・お文拝読・法話  
の後、お齋(肉食)の接待があります。

- 四月二十八日 万町組
  - 五月二十八日 柳町組
  - 六月二十八日 富町組
  - 八月二十八日 後町組
  - 九月二十八日 大町組
  - 十一月二十八日 富町組
- なお、毎月十五日も同様にお講が開かれています。  
(開催月 五・六・七・九・十・十一・十二月)

# 二〇二四年(令和六年)二月二日 住職新年の言葉



あけましておめでとうございませう。ようこそ修正会にお参りくださいました。

昨年は五月の連休明けに新型コロナウイルス感染症の扱いが五類に移行されましたが、八月頭に覚と百佳が感染、そして私たちは九月の秋彼岸の頃に感染してしまいました。

ご門徒の皆様方には月参りを休んだりお葬式やご法事もできなかつたりと大変ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ございませんでした。

それでも私は軽症で済みましたのでよかったです。が、高熱が出たり食欲がなくなつたり、のどが痛いなど大変な方もおいでだったことでしょうか。お見舞いを申し上げます。

また、七月中旬には大雨

による洪水でご門徒の中にも身体的被害を受けられた方、床上浸水、床下浸水、あるいは余儀なく車を廃車にしなければならなかつた方など大変でございました。



12/31 本堂・山門に幕を掛けます

加えて七月八月九月には記録的な猛暑がございました。気温が三〇度を超える日が七月は八日、九月は十日。八月はなんと毎日三十五度越え。しかも三十五度以上の日が十一日もあったの

です。よくぞ皆さんこの厳しい夏を乗り越えることができました。

そして十月にはすぐ裏、風の松原にクマ出没というのもありました。

私はつい六日前の二十六日に門徒さん宅で月忌勤めを終え、立ち上がろうとした時に「魔女の一撃」。ぎっくり腰になってしまいました。動くこともできず坊守に迎えに来てもらい、その後はずっと布団の生活。年末・修正会の準備は何も手伝えることができず、おまけに白道も配れなかつたというボロボロの年の瀬でありました。

それでも悪いことばかりではなく、私の周りでは昨年七月には一昨年九月の覚と百佳の結婚式に続いて、次男の開と美晴の結婚式がございました。美晴は昨年のお盆には開と一緒に手伝いに来ておりましたのでお会いになられた方もおいでだったでしょう。

## 財務委員 研修会

十二月十七日、コロナ下だったため四年ぶりに財務委員研修会が行われた。

お話の内容は、月参り



住職の法話「短くしてね」と

皆さん今日おいでくださってお気づきの方もおいででしょうか、百佳のお腹があんこ型のお相撲さんのように大きくなっています。決して太つたわけではございません。あの中で赤子がすくすくと育っています。予定どおりであれば三月にお目にかかれるようでございます。



責任役員・総代会

やご法事のお速夜でお勤めをする「仏説阿弥陀經」について。

研修会前には責任役員並びに総代会が開催されていたのでそのまま研修会にも参加くださり、終了後は財務委員のご慰労を兼ねて懇親会も開かれました。

います。私たちも楽しみにしておりますので、そのこととかけしてお話をいたしま

す。  
親鸞聖人が真実の教と言われた「無量寿經」の中で『汝、起ちて更に衣服を整うべし』と、お釈迦様がお弟子の、後に多聞第一と呼ばれる阿難尊者に言われた

言葉があります。

本当はもうワンフリーズありまして『汝、起ちて更に衣服を整え合掌恭敬して、無量寿佛を礼したてまつるべし』と続きます。

多聞第一というのは、お釈迦様のお話を弟子の中で一番よく聞いたという意味です。

この言葉は無量寿経という結構長いお経の最後の方に出てくる言葉なのですが、実は無量寿経の最初の方に



お土産の準備

誰にとっても一秒、一分、一時間は同じ長さですから、当然一日も一年も同じはずですが、どうして年を取つてくると時間が早く感じるのか。一年経つのが

は、阿難は『座より起ち』と出てきます。ということ

は、阿難はお釈迦様のお話を最初は立って聞いていたけれど、いつの間にか座って聞いていたということになります。ここをどうもまず踏まえてお聞きください。阿難は最初はお釈迦様のお話を立って聞いていたけれど、いつの間にか座って聞いていたのです。

私たちは年を取ることに一年が過ぎるのが早い早いと申します。確かにその通りに感じているわけですが、それはどういうわけがあるのでしょうか。



イスも並べます

早いと感じるのか。

年を取ると一年が早いと感じる理由をチコちゃんは「人生にときめきがなくなつたから」と教えてくれました。(チコちゃんに叱られる！)

『時間の心理的長さは、年齢に反比例する』とフランスの哲学者・ポール・ジヤネが、すでにこの現象を『ジヤネーの法則』として心理的に解説しています。

つまり、年を重ねた私たちはその日その日に何も感動することがないから、あるいは、特別に何も考えることがなく、こんなものだ

と思つてポーッと一日を過ごしているから、日々の生活にときめくことも緊張感も何もないということなのでしょう。

この緊張感のなさ、全てのことを初ごととして事に当たることのできない今の私たちの生活が、十代の頃までは何事にも興味津々で、それこそ起ち上がっていた者が、いつの頃からか何をやっててもこんなものだろうと知らぬ間に座つてしまつていたので。

蓮如上人は「神にも仏にも、馴れては、手ですべきことを足でするぞ」と言わ



おもちもお供えできました

れました。(御一代記聞書)

二度とやり直しのきかぬもつたいなき一日一日を、これでいいのか、こんな過ごし方でいいのか、と改めて自分に問うてみる。この年になると新たな気持ちで迎えるべき新年、お正月にも慣れてしまつて、だんだんと新たな年を迎えるのだというどこかすがすがしい気持ちも薄れてしまつてきている私たちなのではないでしょうか。

幸いにも三月に新たな命が誕生しようとしています。その子がどう育っていくのか。どのように成長していくのか。

ぎっくり腰の私はこの一週間、横たえた身体をどう起こすのか。痛くないように痛くないようにと思ひながらも時折大きな声をあげながら起き上がったものです。下になつた腕をどう抜くのか、足は身体にどう近づけるのか、どこに手をついてどう踏ん張るのか、な

かなか覚えられませんでした。

生まれてくる赤子は、来年のお正月には起ち上がり、歩いているかもしれません。そうなるために赤子はどのようによれだけの努力をするのか。とくと見させてもらわなければならないと思います。

また、その子が生まれることによつて父母となる二人はどう成長していくのか。同様に父母は経験しましたけれど、このたびの赤ん坊によって初めて祖父母にならせていただく私たちもいます。子は親を選べません。もちろん親も子を選べませんが、子は親を他の親と比べるということもできませんし、しません。「十億の人に十億の母有れど 我母に勝る母あらめやも」(暁鳥 敏)です。ま



1/1 今年初めての正信偈

た、それぞれに代打もリリフもないのです。あなた方はどんな父母、どんな祖父母になつていくのですか、と、それぞれが新しい命から『汝、起ちて更に衣服を整うべし』と言われているのではないかと思ひます。「子が生まれて親が生まれる。二人は同い年。」です。赤子共々、父母も祖父母も、と言つても、赤子はあ

らゆることをものすごい勢いで吸収し成長していくのでしょうが、父母はそれに後れを取らぬように。そしてジジババも遅々としてでも今に安住せず、座り込むことなく、赤子の力を借りて起ち上がり、衣服を整えられたらと思う今年の正月でございます。

赤子から私は何を促されているのか、何を願われているのか、どんな関係であつてほしいと思われているのか。私たちが一方的に赤子に願うのでなく、反対に私たちが赤子から促されている、願われているという



御文拝読 1-1「ある人いわく」



住職からお話があります

ことを思うことのできるこれからになればと思います。今これから、ときめきあ

る楽しい、楽しい、みな一日一日を送ることができそうです。新しい命に感謝です。修正会とは、私たちの生活態度を修正する。軌道修正し、今年一年をどう生きるのか。今日一日をどう生きるのかということを考える集いです。



1/3 スカウトの活動後、リーダーが片付けてくれました



皆様ひとりひとりにとりまして、かけがえのない人生を輝かせるときめきある一年でありますように。また、この世界が早くやさしさに包まれ、世界中のどなた様にとつても明るい一年でありますように。

お寒中、お参りありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。



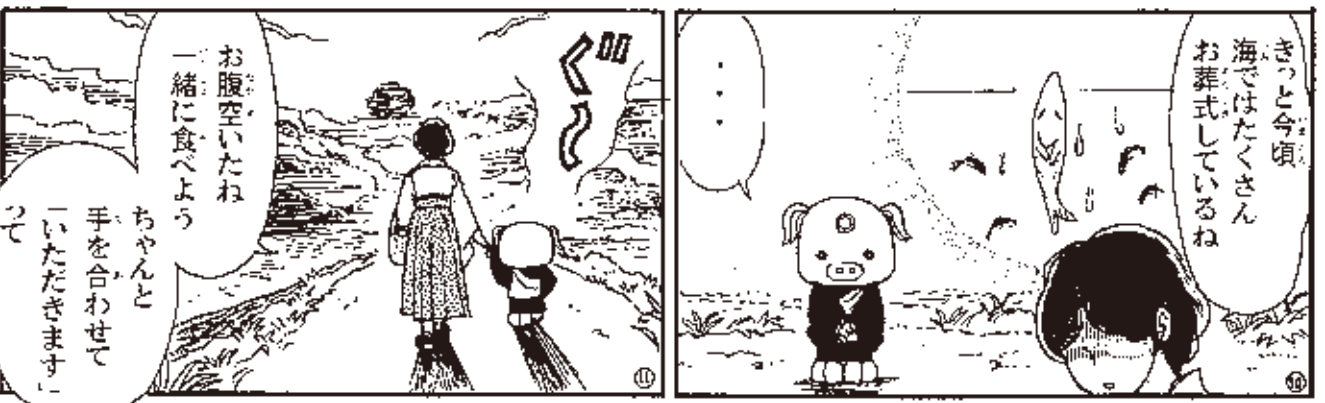
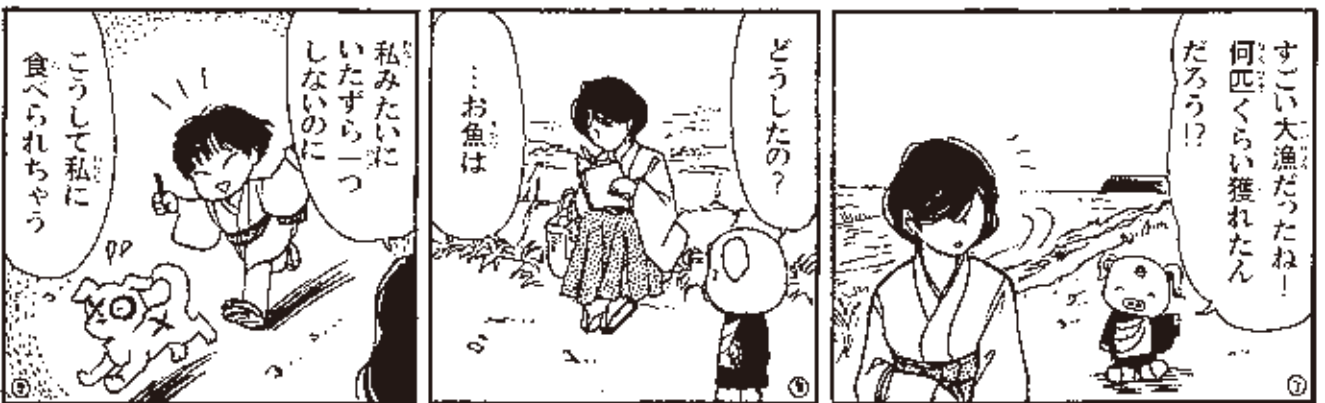
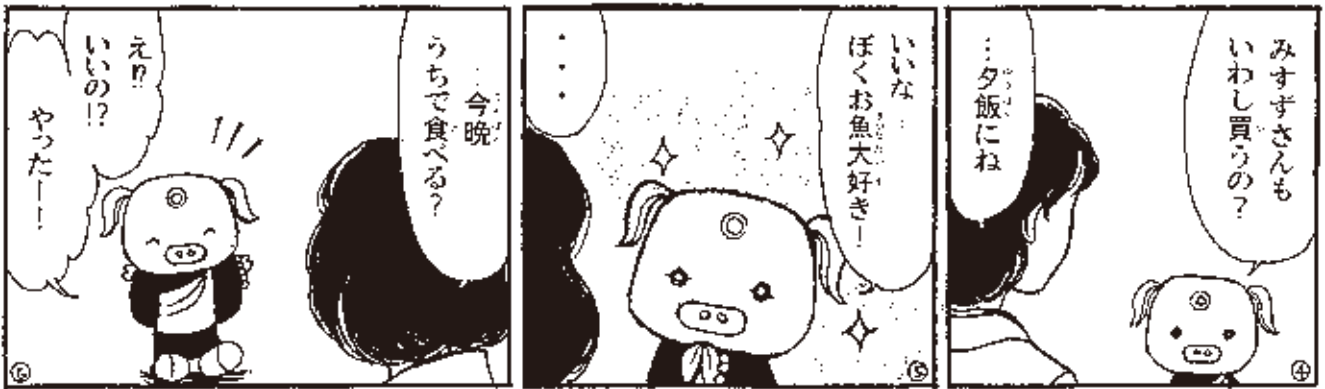
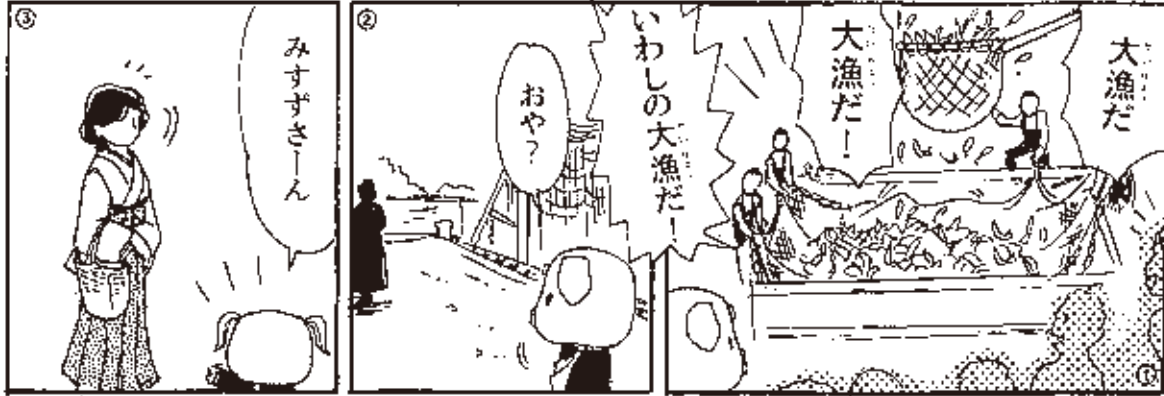
# 仏教マンガ・

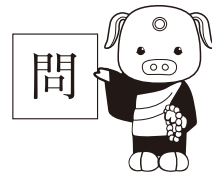
# 仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ

## いわし大漁





これまでお坊さんの法話を何度も聞いていますが、あの世とか先祖の靈魂の話などあまり聞いたことがありません。仏教ではお墓に参ったり先祖の靈を慰め亡き人の声を聞かせていただくことは大事にしないのでしょうか。私はあの世とか靈魂はあると思いますか。 (65歳 男性)

答

「あの世とか靈魂はあると思います」とお考えのようですが、人によっては「あの世も靈魂もない」とも言われます。仏教ではこのことを、「有無の邪見」と教えています。「有る」と「無い」ことに強く捕らわれ、こだわってしまう人間の視点を問題とした仏教の教えを、龍樹菩薩が明示してくれました。親鸞聖人もまた、その教えをとても大切にされています。

「お墓に参ったり先祖の靈を慰め、亡き人の声を聞かせていただく」とのことですが、事を分けて

申しますと。まずお墓はいわば「記念碑」です。ですからお墓にお参りして亡き人を偲ぶということとはとても大切なことでしょうか。しかし、靈を慰めるということはどういうことなのでしょう。そもそも亡き人は慰めを求めておられるのでしょうか。

「亡き人の声を聞かせていただく」と言われるのはどのような声を聞くということなのでしょう。世にいう靈ばい師を通して死者の声を聞くようなことを思われてのことでしょうか。もしそのような意味であるならば妄念妄想であると言わざるをえません。

しかし、亡くなった人は現に生きている私たちと無関係ではないのです。事あるごとに思い出しますし、親を亡くしたことで、あらためて親に遇ったということもあります。亡くなった先祖は靈魂とか亡靈とかいわれる、えたいの知れないものとして存在するではありません。

仏教では、諸仏として現に私たちに大切なことを教えていてくださると教えられています。金子大栄先生は「亡くなった方は、拝まれるものとなって、拝むときに、拝む人のところに現われる」と教えてくださいました。

仏は常にましますぞ、  
現ならずぞ、あわれなる、  
人の音せぬ暁に、

編集後記

ほのかに夢にみえたもう  
読み人知らずの歌ですが、あじわ  
い深い響きをもって届いてまいり  
ます。(大阪教区教化センター)

今年には正月早々、能登半島の地震災害で、たくさんの方々が被災され、未だに通常生活がままならない状態にあり、お見舞いを申し上げる次第です。

自然災害は予定しておくことは出来ないため、なかなか備えを万全にしておくことは難しいとは思いますが、自分の中で、最低限の備えだけはしておきたいものです。皆様も心がけておいてください。

(加賀 記)

**能登半島地震**  
震災お見舞い  
申し上げます

のんびりとしていた一月一日、午後四時十分頃に二度の地震。能代で震度三と思っていたらとんでもないことになっていった。なんと震源は石川県能登地方、マグニチュード七・六、震度七であった。

まず、このたびの「能登半島地震」により大切なご

家族を亡くされた方々、家屋の倒壊など被害を受けられた多くの方々、そして不安な日々を過ごされている全ての方にお見舞いを申し上げ、一日も早く穏やかな日常に戻れますことを念じております。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は真宗門徒の多い地域であります。石川県には真宗大谷派のお寺が八〇六カ寺、富山県には四六四カ寺、新潟県には七五四カ寺、福井県には二一四カ寺があります。秋田県は一〇七カ寺ですの

いかに北陸に浄土真宗の寺院・ご門徒が多いのかがお分かりかと思えます。

そして、多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受けた能登半島には三五三(能登教区)のお寺があり、内、確認ができた三四九のお寺で本堂の大規模被害(倒壊・全壊・半壊等)が報告されているお寺は七二を数えます。被災無しは一六カ寺です。(二月二日現在)

一月十日の十日会で地震のことを話しましたら「早く募金箱を設置しなさい」と。その場でご参加の方々が義援金をお集めくださっていました。

翌十一日に早速本堂内に義援金箱を設置いたしました。この義援金は教務所を通して能登教区へ送金いたします。長い支援をお願いしたいと存じます。

また、これを機会に長らく熱い思いでご協力賜った東日本震災募金箱は来る三月十二日に本堂から撤去し、東北教区にある東日本大震災復興支援特別会計に送金します。

(次号にて報告します)

**十日会**  
展楽座「生前葬」  
12/10

十二月十日、十日会の日。二ツ井町の展楽座が藤里町で「生前葬」を上演する。私は題名にひかれて是非観たいものだと思っていたので十日会の方々を誘ってみましたら、行きたいと賛同くださった。

私の期待とはちよつと違っていたが、皆さん方は面



4年ぶりのお出かけでした

白かった、楽しかったと言ってくくださったので、まず良し。

**餅つき**  
12/17

十二月十七日、餅つきをした。リーダー方は前日から準備。当日はまずもち米を蒸し、外では湯を沸かす。蒸し上がれば、まずリーダーがこねる。スカウトたちは麻布に残ったもち米に群がり、美味しい美味しいとおぼる。

台所ではお母さん方がつきあがるのを待ち、お雑煮、きな粉餅、あんころ餅に仕上げていく。

みんなでいただき、力身に満つ。ごちそうさまでした。



スカウトたちも杵を振り降ろします



もち米っておいしいなあと感嘆の声

**能登半島地震**  
募金

一月二十日、急遽ボーイスカウトがいとく南店で能登半島地震災害義援金募金の呼びかけを行った。東北の地から、他の人のことを思いやる心を日本赤



能登半島地震災害義援金、お願いします

十字社を通して不自由な暮らしをしておられる方々に届けられたらと思う。

募金額  
は八六、三四三円でした。大変ありがとうございました。